令和４年度　数学科　授業改善推進プラン

大田区立大森第四中学校

１　昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）　成果

＜第２学年＞

・図形領域では、基礎的な知識を定着させるために反復練習を多く取り入れ、実物教材、ＩＣＴ機器などを用いて理解を深めさせたことにより、正答率が目標値を大きく上回った。

・論理的に考え、考えを記述する機会を増やすことにより、記述式の問題の正答率が目標値を大きく上回った。

＜第３学年＞

・各領域の正答率において、数と式領域、図形領域、関数領域では、データの活用領域では、それぞれ目標値を大きく上回った。習熟度別に合わせたプリントを用いて授業を行い、反復練習を重点的に行った結果、全ての領域で基礎・基本が定着した。

（２）　課題

＜第２学年＞

・思考・判断・表現の観点の問題、活用の問題の正答率が他の正答率と比べて低い傾向がある。

＜第３学年＞

・思考・判断・表現の観点の問題、活用の問題の正答率が他の観点の正答率と比べて低い傾向がある。

２　大田区学習効果測定の結果分析

（１）　正答率（経年比較）

	令和４年度結果	令和３年度結果	平成２年度結果
第１学年	目標値を上回っている。		
第２学年	目標値を大きく上回っている。前年より数値が上がってる。	目標値を上回っている。（第１学年時）	
第３学年	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。前年より数値が上がってる。（第２学年時）	目標値を上回っている。（第１学年時）

（２）　分析（観点別）

①　第１学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。

②　第２学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。

③　第３学年

知識・理解	思考・判断・表現	主体的に取り組み態度
目標値を大きく上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を大きく上回っている。

３　授業改善のポイント（観点別）

（1）第１学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
図形領域の基礎、小数・分数についての意味の理解が十分でない傾向があるため反復練習にとどまらず、意味についての理解を深める活動を取り入れる。また、実物教材、ＩＣＴ機器等を用いて、理解を深める工夫に取り組む。	活用に関する正答率が大きく上回っているため、継続して主体的に考えを深めていく活動に取り組ませる。	事象に対して疑問をもてるような場面を設定し、そこで子どもに考えさせる時間を確保する。それについて納得できるような議論を生徒同士で展開し、課題を解決していく力を高めていく。

（2）第２学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
計算問題の定着、図形領域の基礎的な知識の定着を図るために反復練習を行う。また、具体物や実物教材、ＩＣＴ機器等を用いて、理解を深める工夫に取り組む。	記述形式で答える問題が苦手な生徒が多いため、論理的に考え、説明する機会を授業の中で増やしていく。	単元毎に日常生活を題材とした問題を扱い、問題解決に取り組む。既習事項を基に自分で問題を作る活動を取り入れていく。単元ごとに振り返りシートを活用する。

（3）第３学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業の導入で反復練習を行い、定期的に小テストを行うことで基本的な知識・技能の定着を図る。また、具体物や実物教材、ＩＣＴ機器等を用いて、理解を深める工夫に取り組む。	図形の証明問題が苦手な生徒が多い。ＩＣＴ機器やワークシートを効果的に用いて、論理的に考え表現できる力の育成に努める。	単元毎に日常生活を題材とした問題を扱い、問題解決に取り組む。単元ごとに振り返りシートを活用し、日常生活の中で数学が活用できる場面について考えさせ、意見を共有し深い学びにつなげていく。